

たんぽぽ

～熊本市の教育～

たんぽぽの花が綿毛のついた種子を風に乗せて遠くへ飛ばすように、熊本市の教育に関する情報を広めていきたいという思いを込めて「たんぽぽ」と名付けました。

熊本市の教育に関する今の話題や出来事を報告します

【二岡中】リオデジャネイロ五輪水球男子日本代表選手から熱い指導 ～二岡中水泳部～

6月28日(月)、二岡中(東区)で、リオデジャネイロ五輪に水球男子日本代表として出場する熊本市出身の志水祐介主将が、小中高生を対象とした水球教室を開いた。志水選手は、水球の楽しさを多くの子もたちに知ってもらうことを目的に、帰熊するたびに水球教室を開いている。教室では、強いシュートの投げ方や相手選手との接触プレイの際の水中での手の使い方のポイントなどを熱心に指導した。

練習に参加した同中の水泳部の生徒は、「世界で活躍している選手と一緒に水球ができ、優しく教えてもらえてとても嬉しかった。オリンピックもしっかりと応援したい」と感想を語った。

同中の田中校長は、「志水選手にわざわざ本校に来ていただき、指導を受ける機会を得たことで、生徒たちには大きな励みとなり、今後も目標に向かってさらに頑張ってくれると期待している」と話している。

(6月29日 熊本日日新聞に関連記事掲載)



【龍田小】手作りの折り鶴で交通安全を呼びかけ

6月30日(木)、龍田小(北区)の4年1組29人が、近くの県道57号線で手作りの折り鶴500羽と反射板入りの啓発チラシを配って、交通安全を呼びかけた。この取り組みは、地域住民の交通安全への意識を高めようと熊本北地区交通安全協会龍田支部が北警察署、PTAの協力のもと毎年実施しているもの。

参加した児童は、「私たちも交通ルールを守っていきたい」と感想を語った。

同小の本村校長は、「本校校区を東西に走る県道57号線は、特に朝夕は交通量が多く、これに通じる道路も多い。この道路を横断して通学する児童にとって、本県道をよく利用するドライバーへ交通安全を呼びかけることで、少しでも交通事故が減ることを願ってる」と話している。

(7月1日 熊本日日新聞に関連記事掲載)



【桜井小】育てたスイカに歓声～スイカの名産地「植木」～

7月6日(水) 桜井小(北区)で、4年生56人が同小に隣接するビニールハウスで育てたスイカの収穫を行った。

この取り組みは、スイカの名産地にある同小が、自然体験活動の一環としてJA 鹿本青年部桜井支部の協力を得て、毎年実施しているもの。児童は、4月に1人1株苗を植えつけ、スイカの成長過程を記録し、水やりやつる引き、交配作業などを行ってきた。

収穫活動に参加した児童たちは、「収穫したスイカの重さは5キロもあった。ばあちゃんに送りたい」「災害があったのに、こんなに大きく育つと思わなかった。りっぱなスイカができて良かった」「収穫したスイカの味は、とっても甘くておいしかった。さすが、熊本のスイカだと思った」と感想を語った。

同小の古財校長は、「JA 鹿本青年部桜井支部の方々に協力していただき感謝している。植木町の特産物であるスイカを育てることを通して、児童はその生命力に驚き、収穫の喜びを味わうことができた。地域への愛情をより一層深めることができたのではないかと思う」と話した。

(7月7日 熊本日日新聞に関連記事掲載)



【出水南小】関西音楽人のちから『集(つどい)』のみなさん、オルガン大切に使っていきます！

7月21日(木) 出水南小(中央区)に、子どもたちの教育に役立ててほしいと、関西音楽人のちから『集(つどい)』から、真新しいオルガンが贈られた。

同団体は、平成23年の東日本大震災から活動を開始した、プロ・アマで構成するチャリティオーケストラで、熊本地震の発生を受けて、子どもたちの力になりたいと本市教育委員会に楽器の寄附の申し出があったもの。同小の5年生が中心となり、お礼のメッセージを作成し、同団体へ送ることを計画している。

5年児童は、「新しいオルガンが届いたときは、みんなで歓声をあげ喜んだ。思いがけないプレゼントに感動した。自分たちのことを思って、送っていただいた方々に感謝して、大事に使っていきたい」「きれいな音に感動した」と感想を語った。

松島校長は、「全国の方々が、熊本地震の大変さを共感してくださり、こうして寄贈していただいたことを全校児童に伝えた。他にもたくさん全国からの励ましや贈り物をいただいております、困ったとき、いつでも全国みんなの心がつながっていることを感じることで嬉しく思う」と話した。

